

平成 23 年 9 月 29 日	病虫害発生予報 10月号	茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

農作物の収穫後は被害残渣や被害葉を持ち出すなど圃場管理に努め、次作の病虫害の発生を抑えましょう。

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病虫害】	
果樹共通：カメムシ類	1
共通害虫：オオタバコガ	1
共通害虫：ハスモンヨトウ	2
トマトの黄化葉巻病について	2
【防除所レポート】	
リンゴ：スモモヒメシンクイ	3
【その他の病虫害】	4
水稲，大豆，ナシ，ブドウ，イチゴ，秋冬ハクサイ，冬レタス，秋冬ネギ	
II. 今月の気象予報	5

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病虫害防除所 Tel:029-227-2445
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

果樹共通(カキ・リンゴ)

1. カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 9月下旬現在、県予察圃（笠間市）におけるカキの被害果率は平年並である。
- ② 9月下旬現在、予察灯（かすみがうら市）へのチャバネアオカメムシの誘殺数は、平年より多い。
- ③ 9月中旬現在、主な生息地であるヒノキ林での果樹カメムシ類の発生量は平年より多く、今後主要な餌であるスギ及びヒノキの球果が不足すると、果樹園への飛来が増加すると予想される。
- ④ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、活動を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、収穫前日数に十分注意して、活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。

共通害虫

1. オオタバコガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 9月下旬現在、秋冬ハクサイでの寄生幼虫数は平年より多く、冬レタスでの寄生株率は平年並である。
- ② 9月下旬現在、フェロモントラップへの雄成虫の誘殺数は水戸市、龍ヶ崎市、筑西市で平年より多く、土浦市でやや多い。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 幼虫の齢期が進むにしたがって薬剤の殺虫効果は低くなるため、圃場をよく観察し、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ② レタス、ハクサイ等では、結球内に幼虫が食入するとその後の防除が困難になるため、発生初期及び結球始期以降の防除を徹底する。
- ③ 抑制トマト等では、収穫終期まで加害を続けるので、発生しているハウスでは防除を徹底する。
- ④ 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元等、株全体によくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。

（平成23年9月16日発表の病害虫速報No.6参照）

(共通害虫 続き)

2. ハスモンヨトウ

[予報内容]

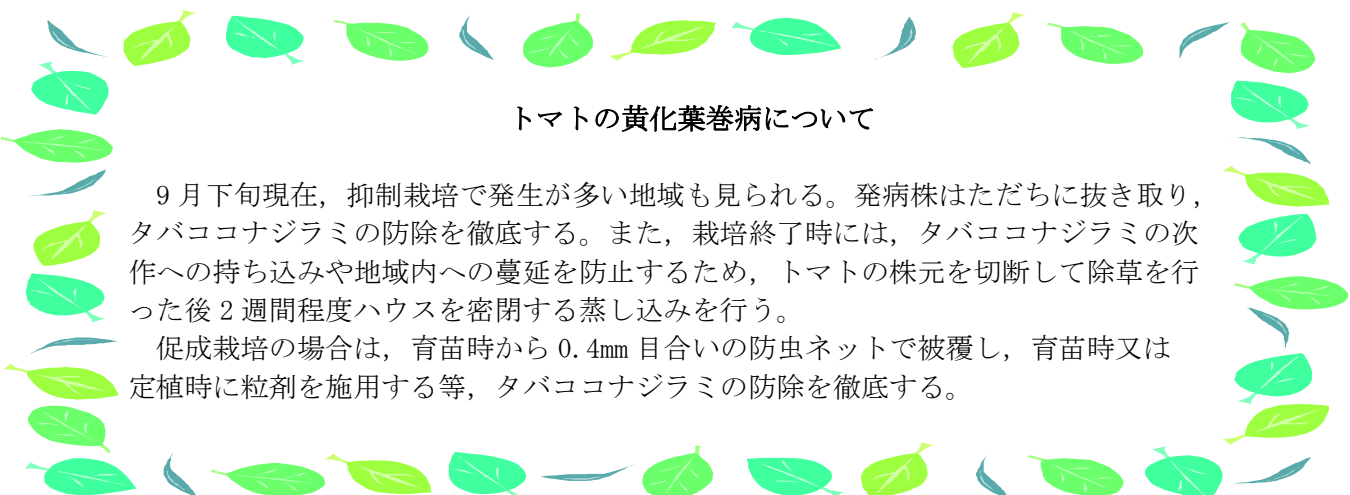
発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 9月下旬現在、秋冬ハクサイでの寄生幼虫数は平年よりやや多く、大豆・イチゴ・冬レタスでの発生量は平年並である。
- ② 9月下旬現在、フェロモントラップへの雄成虫の誘殺数は水戸市、笠間市、土浦市、筑西市で平年より多く、鉾田市、龍ヶ崎市でやや多い。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の気温は平年より高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 圃場をよく観察し、若齢幼虫の集団の早期発見に努める。幼虫が中齢以上になって分散して食害するようになると、被害量が増大するだけでなく、薬剤の効果も低くなるため、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- ② レタスやハクサイ等では、結球内に幼虫が入るとその後の防除が困難になるため、発生初期及び結球始期以降の防除を徹底する。
- ③ 施設栽培では、ハウスの開口部に防虫ネットを設置し、成虫の侵入防止に努める。
- ④ 薬剤散布は、薬液が葉裏や株元等株全体によくかかるよう丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるために、系統の異なる薬剤を散布する。



トマトの黄化葉巻病について

9月下旬現在、抑制栽培で発生が多い地域も見られる。発病株はただちに抜き取り、タバココナジラミの防除を徹底する。また、栽培終了時には、タバココナジラミの次作への持ち込みや地域内への蔓延を防止するため、トマトの株元を切断して除草を行った後2週間程度ハウスを密閉する蒸し込みを行う。

促成栽培の場合は、育苗時から0.4mm目合いの防虫ネットで被覆し、育苗時又は定植時に粒剤を施用する等、タバココナジラミの防除を徹底する。

スモモヒメシンクイによるリンゴの被害

スモモヒメシンクイは従来スモモやボケ等を加害する害虫だったが、他県では近年リンゴへ被害が拡大している。本県においても、フェロモントラップへの誘殺やリンゴ果実への被害が認められている。

1. 生態

老齢幼虫は体長約10～13mm、成虫は体長約7mmと、ナシヒメシンクイと比べやや大きい。外見はナシヒメシンクイと似ているが、展開させた後翅外縁の形状から区別することができる（ナシヒメシンクイは曲線状、スモモヒメシンクイはやや角張っている。写真1）。一般的に、越冬・第一世代成虫は主にスモモやプルーンに、第二・第三世代成虫がリンゴに産卵すると考えられている。県内においては、フェロモントラップの調査から年4回の発生が確認されている（図）。

2. 被害の特徴

リンゴへの被害は主に8月下旬以降に発生する。孵化幼虫は果皮下を食し、直線・渦巻き・放射状など多様な食害痕を残す（写真2）。その後加害部が変色し、腐敗する。

3. 防除対策

リンゴでは、被害が8月下旬以降に発生するので、8月以降にシンクイムシ類に登録のある薬剤で、収穫前日数に注意して防除を実施する。被害果は、水に浸漬するか土中深く埋めるなど、適正に処理する。

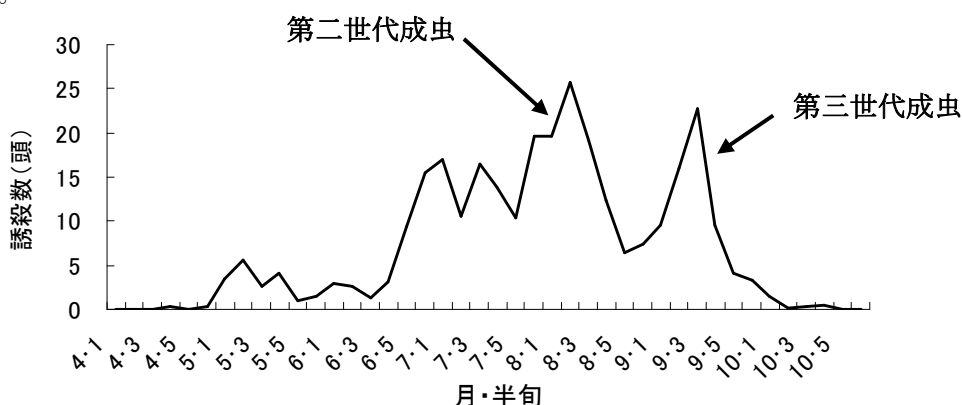


図 フェロモントラップにおけるスモモヒメシンクイの誘殺状況
(平成21年と平成22年の平均値, 大子町頃藤)



写真1 ナシヒメシンクイ（上）とスモモヒメシンクイ（下）の雄成虫とその後翅



写真2 リンゴにおけるスモモヒメシンクイの被害痕

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量：－	収穫後はできるだけ早く耕起作業を行い、害虫の越冬場所となるイネの株や雑草を無くす。(縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介する。)
	ニカメイガ		
大豆	紫斑病	発生量：－	適期収穫に努め、収穫後は速やかに乾燥・調製を行う。残渣は第一次伝染源となるため、収穫時に細断して畑にすき込む等、適正に処理する。
ナシ	黒星病	発生量：－	秋季防除を徹底する。落葉は翌年の伝染源となるので、集めて適正に処理する。
	ナシヒメシンクイ	発生量：－	被害果は水に浸漬するか、土中深く埋めるなど、適正に処理する。
ブドウ	べと病	発生量：－	秋季防除を徹底する。落葉は翌年の伝染源となるので、集めて適正に処理する。
	褐斑病		
イチゴ	炭疽病	発生量：やや多い	9月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
秋冬ハクサイ	白斑病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。
	べと病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。
	軟腐病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。風雨が多いと発生が助長されるので、台風等の風雨の後は、防除を徹底する。
冬レタス	菌核病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。葉の基部を観察し、発生を認めた場合は初期防除を徹底する。
	腐敗病	発生量：平年並	9月下旬現在、平年並の発生である。結球開始期に降雨が続くと発生しやすいので、初期防除を徹底する。
秋冬ネギ	ネギアザミウマ	発生量：平年並 ～やや多い	9月下旬現在、平年並～やや多い発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 9月24日から10月23日)

気象庁 (9月23日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	20	30	50
降水量	関東甲信全域	30	30	40
日照時間	関東甲信全域	40	30	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

<1週目の予報> 9月24日(土曜日)から9月30日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

<2週目の予報> 10月1日(土曜日)から10月7日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または低い確率40%

<3週目から4週目の予報> 10月8日(土曜日)から10月21日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率50%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。